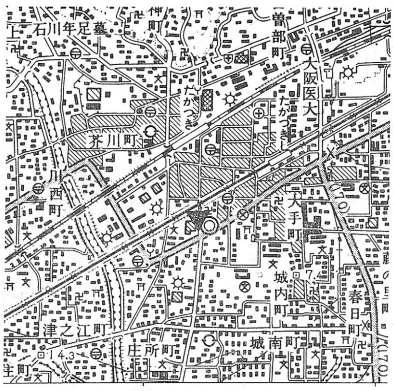
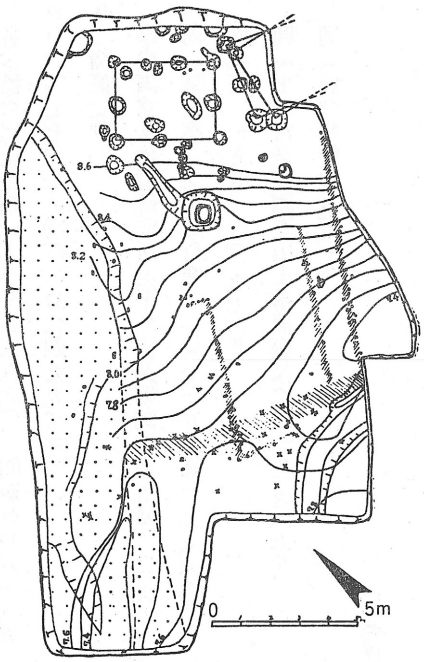
大阪・上田部（かみたべ）遺跡

1 所在地　大阪府高槻市桃園町
2 調査期間　一九六九年（昭44）五月
3 発掘機関　高槻市教育委員会
4 調査担当者　原口正三
5 遺跡の種類　集落跡・水田跡
6 遺跡の年代　奈良時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

上田部遺跡は芥川の東方、現高槻市の市庁舎の敷地内に位置し、市庁舎の建設に伴う事前調査で発掘が行なわれた。調査地域の北側には小規模な掘立柱建物二棟、井戸などがある。南側では沼と思われる深い泥炭化した黒色粘土層（凹部には薄く砂層が堆積する）の上に二面の水田が形成されている。下の水田には東西方向の、水路に伴う杭列や屈曲した溝があり、上の水田には南北方向の杭列がある。下の水田が土砂で埋没したため上に新たに水田が作られたらしいが、木簡をはじめとする遺物からみて、両者の間に大きな時間差はない。木簡はすべてこの二面の水田から出土した。木簡のほか、馬鍬・田下駄・機織具などの木製品、土器、和同開珎、牛骨などの遺物があり、牛耕をなしうるほどの規模の農業経営を想定することができる。そのうえ、小字名が「田部」であること、「田子」と墨書した土器があることなどから、竹村屯倉の系譜を引く摂津国の官田跡とする見解が有力である。ただし、木簡やそのほかの遺物は西方の芥川の分流が溢れたために、おし流されてこの地に堆積したものと考えられている。



（京都西南部）



8　木簡の釈文・内容

(1)　□□十五尻今遺定五百廿三尻　(143)×33×4　019
　　六々

(2)　品遅部君□□　(146)×30×9　019
　　〔嶋末カ〕

(3)　「土止申　(98)×29×5　019

(4)　土□□□□□」　(155)×(18)×4　019

(5)　・□〈」
　　・□〈」　(85)×28×5　039

(6)　・今遺二段□□□壱分
　　天平七年閏十一月廿三日＝
　　＝□□主道守千足　(280)×(20)×6　019

(7)　×月六日
　　十二月　(119)×(27)×3　019

(8)　・□□政□
　　四月申日
　　・□□□□　(63)×(36)×2　081

(9)　□首□　(17)×(16)×3　081

(10)　・「○□□曽□在高不□々」
　　〔謹閏カ〕　〔高カ〕
　　・「○□□□□
　　□□□」　79×22×3　022

(11)　七□□　(135)×(12)×3　081

出土した木簡は一三点あるが、一点は罹災焼失し、一点は腐蝕が激しい。(1)には裏面にも墨痕がある。(1)(6)は田積の計算に関わるもので、いずれも遺った田の面積を記している。(1)の「尻」は代に通じるとされている。(6)の天平七年閏十一月という年紀に注目し、これらの木簡は天平七年の班田と関連するとされているが、これらが官田と関連するとすれば、班田の対象外とされた可能性が強く、班田との関連は疑問であるとする見解もある。

9　関係文献

高槻市教育委員会『上田部遺跡調査概報一九六九』（一九六九年）
原口正三・富成哲也「大阪府高槻市における上田部遺跡と川西遺跡の調査」（『日本歴史』二五六　一九六九年）
高槻市史編さん委員会『高槻市史』第六（一九七三年）
木簡学会編『日本古代木簡選』（一九九〇年）

（鷺森浩幸）